

# 楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.40

日時	2013年9月29日
行脚先	城井神社・扇城神社
住所	大分県中津市二ノ町（豊前国）
行事名	

## 特徴

城井神社には宇都宮鎮房が、扇城神社にはその従臣らが祀られています。  
城井谷城主宇都宮家は信房より鎮房に至る十六代、およそ四百年の間豊前国守として徳政を布きました。  
天正15年(1587年)5月、豊臣秀吉は九州平定にあたり豊前六郡を黒田官兵衛に、二郡を毛利勝信に与え、鎮房には四国今治(十二万石)移封の御証判を与えました。  
鎮房は累代の墳墓の地の安堵を願い、このご朱印状を返上したため、宇都宮一族は黒田官兵衛・長政と豊前の地で死闘を繰り返すこととなります。黒岩山合戦(峯合戦)では長政を敗退させました。  
そこで秀吉は官兵衛と謀り、所領安堵を条件として長政と鎮房の息女千代姫(鶴姫)との婚を約し和睦しました。  
天正16年(1588年)4月20日、鎮房は中津城に招かれ酒宴の席で謀殺されました。  
合元寺に留め置かれていた宇都宮鎮房の従臣らは異変を察知し、次々と城中に駆け入り、龍が荒れるように戦いましたがあえなく討死となりました。天正19年(1591年)、黒田長政は深く感ずる処があり、城内守護紀府(城井)大明神として鎮房を祀り、福岡移封後は、その地に警固大名人として祀りました。宝永2年(1705年)小笠原長円は小社を建て、城井大権現として崇め、その後幾度かの変遷の後、城井神社として改められました。同時に従臣を小吉稻荷大名神とともに祀り、その後大正9年(1920年)4月20日、鎮房公従臣四十五柱が境内末社として祀られました。

## 黒田官兵衛との関わり

城井神社は中津城で黒田官兵衛・長政らに誘殺された宇都宮鎮房が埋葬されており、扇城神社は黒田氏に殺された宇都宮氏の従臣らが祀られています。  
宝永2年(1705年)に中津藩主小笠原長円が宇都宮鎮房を「城井大権現」として、城の守護神として祀るとともに、従臣を稲荷大名神として祀ったことが始まりです。

## 記録

